

2021/12/13 令和3年度第2回就学前教育・家庭教育講演会

幼児教育施設における 保護者支援



茨城大学 人文社会科学部

金丸 隆太

(臨床心理学)



カウンセリングの経験から



- 保護者の悩み：先生に責められる。
- 保育者の悩み：保護者に責められる。

どちらも相手を責めているつもりはないのに、相手に責められている気持ちになっています。なぜでしょうか？



保護者対応マニュアル



- 保護者対応はほとんど全ての保育者が苦手に行っていることで、保育者向けのマニュアルにも多く取り上げられるテーマです。そこに書かれているのはだいたい右のような内容です。

こまめにコミュニケーションを取りましょう
言葉づかいを丁寧にしましょう
プラスの面を伝えましょう
子どもと信頼関係を作りましょう
保護者の気持ちに寄り添いましょう
笑顔を心がけましょう
保護者をねぎらいましょう



子育ての生物学



- 子どもの自立に時間がかかる（二次的晩成性）。
- 助け合いが進化を加速させた（か弱いサル仮説）。
- 女性の共同体で子育てをする（おばあさん仮説）。



参考：内田亮子（2004）「親になること & 子育ての生物学」学術の動向（2004.7）
Winder & Winder（2015）“Complexity, Compassion and Self-Organisation: Human Evolution and the Vulnerable Ape Hypothesis” Internet Archaeology 40.

子育ての心理学



- 人は個人差が大きい生き物である。
- 共同子育てから快の感情を得ることができる。
- 親の責任だというプレッシャーが強い。



保育現場で起きていること



- 人は女性を中心とした共同子育て環境を作りますが、現代社会は互助・共助機能が低下していて、母親が自分で一生懸命動かないと、良い子育てを出来ないという焦りを持ちやすいです。
- 幼児教育施設は母親の「**我が子**を保育してほしい」という希望のために存在していますが、保育者の仕事は「**子ども達**」の保育をすることです。



集団生活



- 幼児教育施設の重要な役割のひとつは、子どもが集団で育つ機会を提供することです。
- 保護者ももちろんそれを望んでいるのですが、集団の中で我が子がつらい思いもしながら育つことを、なかなか受け入れられません。



つまり、保護者も保育者も、子どもを健康に育てようと頑張っているのですが、保護者が保育者にやり方を任せることが出来ないから、両者はぶつかるのです。



保護者 我が子を護りたい

保育者 子ども達を育てたい



子育ての分担と共有



- 我が子最優先の保護者と、子ども達全員を優先する保育者の役割は異なることを、保護者と保育者の両方が理解しなければ、保育は上手くいきません。
- そこで重要なのは、保護者が我が子を最優先することとは大切なことだと認識することです。



想像してみましよう



我が子を優先しない親、つまり・・・

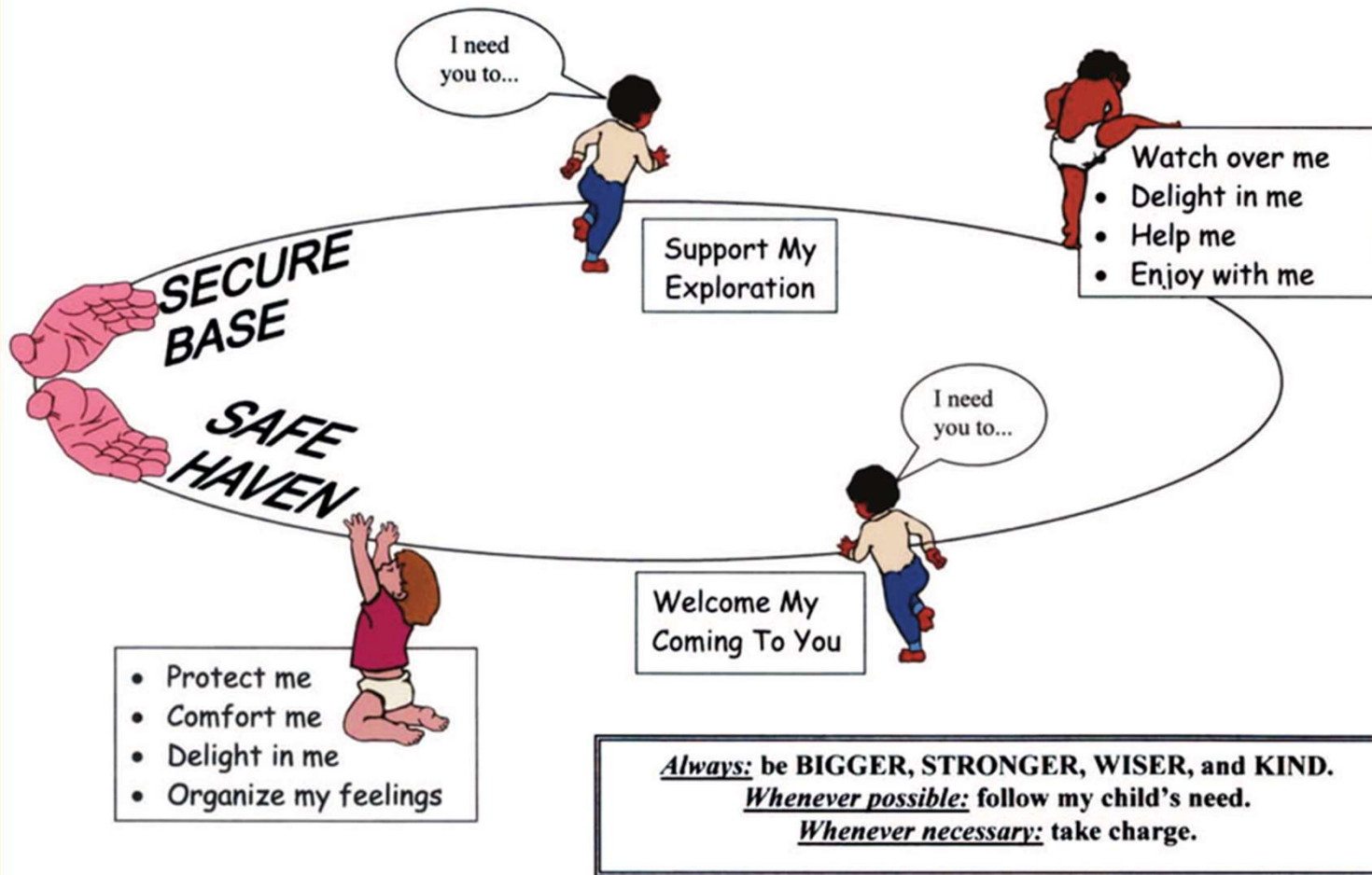
- ・使いたいおもちゃが重なったらゆずらせる。
- ・たたかれたり悪口を言われたりしてもがまんさせる。
- ・行きたくないところでも行かせる。
- ・苦手な活動をやらせる。
- ・本人の言うことを信用しない。

こんな親がいたら、あなたはどう思いますか？



CIRCLE OF SECURITY

PARENT ATTENDING TO THE CHILD'S NEEDS



© 2000 Cooper, Hoffman, Marvin & Powell

特に乳幼児期において、養育者（母親のことが多い）は子どもの「安心の基地＝そこから探索に出かけるところ」「安全な避難所＝危険のサインに遭遇したときに逃げ帰るところ」として機能します（工藤晋平、2020）。

Cooper, Hoffman, Marvin, and Powell.(2002) The Circle of Security project: Attachment-based intervention with caregiver-pre-school child dyads. Attachment & Human Development 4(1):107-24 DOI:10.1080/14616730252982491

ここまでのまとめ



- 人間の子育てはひとりではできない。
- 子育て共同体は自然にはできあがらない。
- 幼児には我が子最優先の保護者と、集団生活重視の保育者が、お互いの役割を理解する必要がある。



「そんなことわかってるよ。
マニュアルに書いてある。」
と思いましたか？

本当に、保護者を子育て仲間
だと思えていますか？



なぜ保護者対応で悩むのか？



- 利害が対立してしまうから。

例：保育者が子どもに身につけて欲しいことを、保護者が子育ての中で重視してくれない。

- そして保護者を敵視するから。

例：保護者の保育への意見をクレームとして受け取る。



利害対立→敵視をやめる



- 保護者と保育者は役割が異なるのです。
- 昔のように、よその子を叱り、自分の子も他の大人に叱ってもらう、という平等な役割分担では無くなっています。



- 子どもが家で安心し、園で冒険する循環を作りましょう。

「責める」を考える



- 前述のように、保育者も保護者もお互い「責められている」と被害的になっています。これは自分の役割を相手が理解していないという思いから生じます。

- 子育て仲間同士、相手を責めなくて良いように、相手に期待することを考え直しましょう。



保護者に期待すること



- 子どもの安心の基地・安全な避難所になってもらう。
子どもが不安になったときにその感情を十分に表現して、安心を得るための相手になってもらう。
- 子どもの感情を優先してもらう。過保護になるということではなく、子どもが「大切にされている」と思えるような関わりをしてもらう。



保育者に期待してもらおうこと



- 人がたくさんいる中で、自分も相手も大切にされる経験をさせる。
- 親から離れて冒険をさせる、協力したり、ひとりでやったりしながら、新しい経験に興奮する機会を提供する。



おわかりでしょうか。

子育て仲間として、保育者と保護者がお互いの役割を理解してリスペクトし、子どもには両方必要だよね、と余裕を持って相手に任せることが大事なのです。



土地と建物



- 保護者支援は、実は保育者支援でもあります。文明の進歩によってありとあらゆる環境を人工的に作るようになった現代社会では、子育て共同体を人工的に作り上げる必要があります。

- その時、そもそも人は子どもをたくさんの大人と一緒に育てる生き物なのであることを前提にして下さい。誰のどの子育て行為も貴重なのだという「**リスペクトの土台**」の上に、子育て共同体（家と保育施設の連携など）を作りましょう。保育や子育ての技術は、しっかりした土台の上で用いないと効果がありません





こまめにコミュニケーションを取りましょう
言葉づかいを丁寧にしましょう
プラスの面を伝えましょう
子どもと信頼関係を作りましょう
保護者の気持ちに寄り添いましょう
笑顔を心がけましょう
保護者をねぎらいましょう

土台

保育者 ↔ 保護者
お互いのリスペクト
「私達は子育てを頑張ってますね！」

リスペクトの無い関係



- 自分の期待を相手に強制する。

例：家でやっているように園でもやってほしい。

園でやっているように家でもやってほしい。

- 相手の力を値引く。

例：若い保育者だから力が無い。

若い保護者だから力が無い。



リスペクトのある関係



- 相手の存在に感謝する。

例：園の先生がいてくれてありがたい。

お母さんがいてくれてありがたい。

- 相手の考え方を否定しない。

例：先生のやり方には意味があるのだろう。

お母さんのやり方には意味があるのだろう。



保護者支援は責任の分担



- このように、子育てに関わる者同士、つまり保育者と保護者だけでなく、祖父母、習い事の先生、近所の方、よく行くお店の店員さん、運転手さんなど、子どもに関わっている大人同士が、お互いの存在に感謝して、考え方を頭ごなしに否定しないことが、健康な子育て共同体を作る条件です。
- その上で、必要に応じて自分の意見や希望を相手に伝えましょう。「私はこうすると良いと思います。あなたはどう思いますか？」と自分への自信と相手への尊敬を持って、子育てに関する意見のやりとりをしましょう。それが保護者支援なのです。保護者支援とは、単に保護者を手伝うことでは無く、保護者の責任を大人達皆で分担することなのです。



そして現実



- 現実には、保育者と保護者の役割がきれいに分かれているわけではありません。個々に応じて、重なる部分もあります。
- 相手を信頼して任せることを学ばねばならない保育者も保護者もいますし、子育ての技術を学ばねばならない保護者も保育者もいます。そしてその学びは、自発的で無くては効果が低いのです。
- 今日の裏テーマは、もっと仕事を楽しみたいのなら、まずは自分が子育て共同体の一員であることを自覚し、保護者や同僚をリスペクトするところから始めましょうということです。それは周りが自分をリスペクトすることにつながります。そして自分に必要な保育の技術に気づきやすくなります。その循環に、保護者も巻き込んでいきましょう。



まとめ

- ・保護者と保育者の役割が違うことを意識しましょう。特に保護者の「安心の基地」、保育者の「冒険の提供」を重視しましょう。
- ・子どもに関わる大人達がリスペクトしあいましょう。
- ・自分も相手も大切にして、子どもの健康のための意見交換をしましょう。意見が合わないとき、相手の役割から相手の意見の意味を考えましょう。
- ・子育て（保育、育児）は大変な作業です。プレッシャーを与えあうのではなく、責任を分担しましょう。



よくある質問



Q：子育て未経験の保育者は信用されない？

A：保育者の仕事は育児ではなく保育。保護者とは違う役割があることに自信を持って。

Q：虐待的な親のこともリスペクトするのか？

A：存在はリスペクトし、行動は変容を促しましょう。虐待的な親は、周りを信用できず一人で抱えて行き詰まっている人です。共同子育てに誘うには、親の努力を尊重するところがスタートです。

